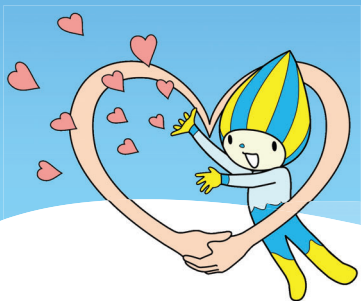


令和4年度がん教育シンポジウム

岐阜県の高등학교における 「がん教育」の実践について



岐阜県教育委員会体育健康課
教育主管 中村 康男

発表内容

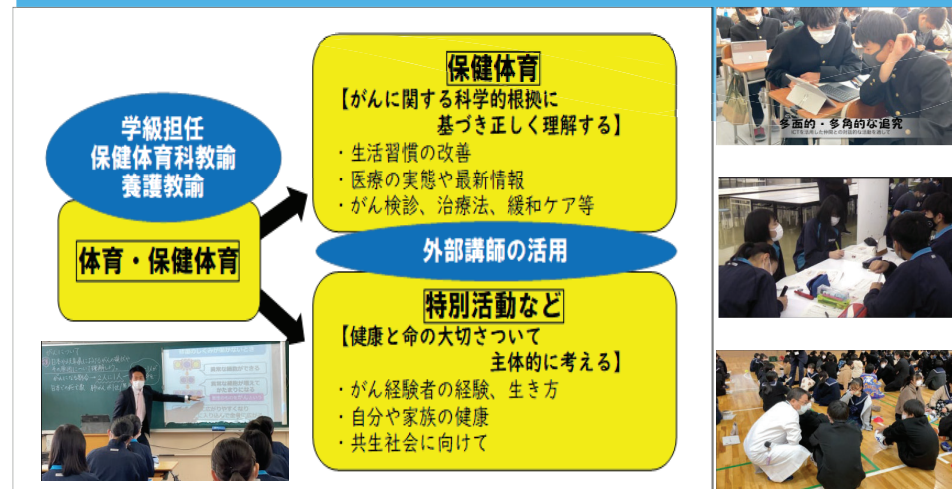
- 1 「がん教育」岐阜モデル
- 2 令和4年度の岐阜県の取組
- 3 指定校の実践例
- 4 成果と課題



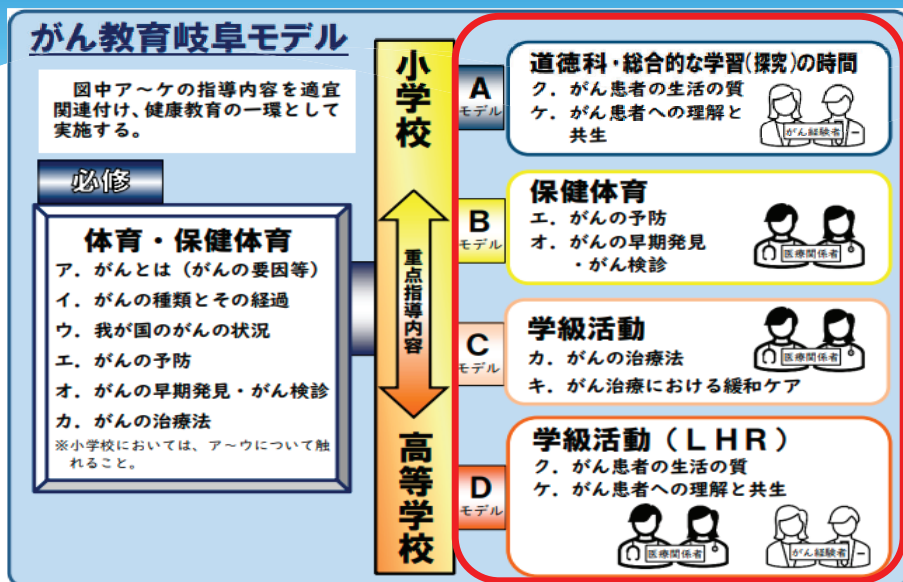
平成30年度からの 岐阜県「がん教育総合支援事業」の取組より

- * がん教育は、他の疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含め、健康教育の充実を図ることができる。
- * 「健康や命の大切さ」や「自己の在り方や生き方」、「家族愛・他者への思いやり」、「共に生きる社会づくり」等の学習と関連付けることができる。
- * 医師やがん経験者等の外部講師が参加することで、大きな効果が期待できる。ただし、対象学年全ての学級に外部講師が参加することは困難である。

1 「がん教育」岐阜モデル



1 「がん教育」岐阜モデル



2 令和4年度の岐阜県の取組

(1)がん教育推進協議会

◇年2回開催し、がん教育の推進に向けた取組の検討及び評価

(2)指定校によるがん教育の実践研究

◇中学校3校、高等学校2校を指定し、モデル授業の研究

(3)がん教育指導者研修会

◇指定校の授業を参観するとともに、指導方法等の研修を実施

(4)外部講師の体制整備

◇外部講師リストの作成

(5)がん教育の手引き作成

◇がん教育の進め方及び実践事例を掲載

(4)外部講師の体制整備

学校におけるがん教育の講師リスト										(R4.4.5現在)	
No.	所属先	診療科	職名	性別	講習可能な内容 がん教育の推進に関する事項	備考	講習可能な内容 がん教育の推進に関する事項	講習可能な内容 がん教育の推進に関する事項	講習可能な内容 がん教育の推進に関する事項		
1		小児科	臨床講師・丹東部長	医師	○	小児がん、AYA世代					
2		小児科	臨床講師	医師	○	小児がん、AYA世代					
3		小児科	医員	医師	○	小児がん、AYA世代					
4		第1内科	教授	医師	○	生活習慣病とがん、感染症とがん、がん予防					
5		第1内科	准教授	医師	○	がん予防、がんの早期発見					
6		第1内科	講師	医師	○	がん予防、がんの早期発見					
7		泌尿器科	臨床講師	医師	○	泌尿器科がん、膀胱癌、ロボット手術					
8		看護部	看護部長（R4.4～）	看護師	○	がん看護					
9		がん診療部	部長	医師	○						
10		看護部	看護部長	看護師	○						
11		看護部	看護部長	看護師	○						
12		呼吸器内科	副院長	医師	○	△	大塚市では医師と経験者で行っています。				
13		消化器内科	副院長・内科部長	医師	○						
14		泌尿器科	泌尿器科部長	医師	○						
15		外科（化学療法室）	がん化学療法看護認定看護師	看護師	○						
16		がん相談支援センター	緩和ケア認定看護師	看護師	○						
17		がん相談支援センター	がん看護認定看護師	看護師	○						
18		緩和ケア内科		医師	○	緩和ケア専門医					
19		緩和ケア内科		医師	○	緩和ケア専門医					
20		内科（消化器科）	医師会事務部長	医師	○						
21		消化器内科	部長	医師	○						
22		がん医療センター	看護部長	看護師	○						

R4. 5時点で
22名

今年度は、
県医師会や
患者団体に
依頼し、
さらなる増員
を目指す

(5)がん教育の手引き作成

学校における がん教育の手引き



令和4年10月
岐阜県教育委員会

目次

- 1 学校におけるがん教育の考え方
 - 1 がん教育の定義
 - 2 がん教育の目的
 - 3 がん教育の具体的な内容
 - 4 学習指導要領における「がん」に関する記載
 - 5 学校教育活動全体でのがん教育の推進
 - (1) がん教育推進にあたっての留意点
 - (2) がん教育実施にあたっての配慮事項
 - (3) がん教育岐阜モデル
 - (4) 外部講師の活用について
- 2 依頼を受けた外部講師の方へ
- 3 実践事例
- 4 モデル授業指導案
- 5 参考資料
- 6 相談窓口

3 指定校(高等学校)の実践例

◆県立吉城高等学校

(ねらい)がんを自分にとって身近なこととしてとらえ、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える

(講 師)地域のがん拠点病院医師

◆県立揖斐高等学校

(ねらい)がん患者への理解を深める中で、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」、「支え合って生きること」について考える

(講 師)地域のがん拠点病院医師とがん経験者

□指導者研修会のもち方

授業公開(50分)	研修会(60分程度)
揖斐高等学校...Dモデル 吉城高等学校...Dモデル	・授業等に関する質疑応答 ・外部講師及び県教委担当者からの指導・助言

第1時:保健体育(保健)授業の工夫

～主体的に健康課題を発見し、解決する力を育むために～

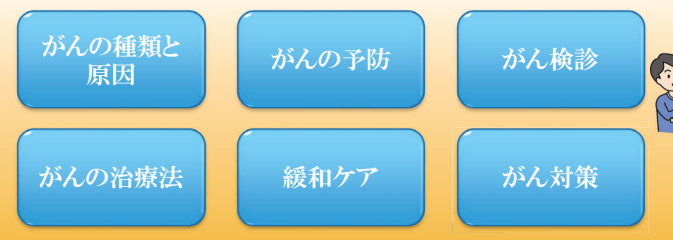
- *興味・関心をもたせる導入
- *これまでに習得した知識や経験を生かし、主体的に追究することができる展開
- *さらなる疑問や追究したい内容を顕在化し、次時につなぐまとめ

基本的な1時間の流れ

過程	学習内容	留意点
導入	○割合の大きさを尋ねる ・花粉症 ・あるSNSの利用者 ・〇〇カード ・がん経験者 ○「がん」について知っていることを発表する	☞興味・関心を持たせる導入の工夫
展開	○グループごとに追究したい内容を選択し、資料やこれまでに習得している知識等をもとに、グループ内で意見交流しながら、模造紙にまとめる ○グループでまとめたことを発表する	☞リーダーを中心に交流を組織し、意見をまとめる ☞ICT活用も効果的
まとめ	○自分ががんを予防するうえでとるべき行動を学習ノートにまとめる	☞次時の外部講師が参加する授業につなぐ

主体的・対話的な学びを生み出すために

■グループ追究(例)→ホワイトボード等にまとめ、記述



■全体発表

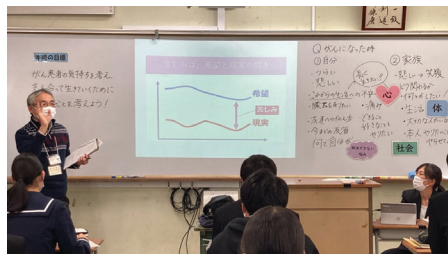
☞グループごとに追究し、まとめたことを発表する

■保健体育科教師のまとめ

☞補足する内容や本時に押さえない内容をグループ追究のホワイトボードや板書などで確認する

第2時：外部講師参加授業の工夫

- * 効果的な学習にするための外部講師との「事前打ち合わせシート」
- * 思考を活性化し、学習を振り返ることができる学習ノート
- * 主体的な学習を生み出し、学びを深めるグループ交流



効果を高める事前打ち合わせシート

がん教育事前打ち合わせシート〔吉城高等学校〕

日時及び場所	令和4年10月7日(金) 17:00 ~ ※※※
事前指導内容(指導済み)	① がんとは(がんの要因等) ② がんの診断とその経過 ③ 我が国のがんの現状 ④ がんの予防 ⑤ がんの早期発見・がん検診
事前・事後学習(指導済み)	事前:10/11保健 現代社会と健康「がんの予防と健康(アーク)」 事後:11/15保健 現代社会と健康「がんとともに生きる社会づくり」(キーク)
本時のねらい(指導の重点)	がんを自分にとって身近なことでして考え、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える。(キーク)
授業展開(主な学習活動)	1. 課題づくり・課題紹介 日本人ががんになる確率等、既習の内容について触れ、がんを自分にとって身近なことでして考える。⇒講師の紹介 2. もし、自分や家族ががんを罹ったら、どんな気持ちになって、どんなことで悩むか考えてみよう。(身体・心・社会)なぜ自分ががんという解決できない問題なのか 3. がん患者が暮らしやすい社会を考える ★グループ交流→全体でのシェア テーマ①「自分ががんになった場合」 →がん患者の立場について考えよう テーマ②「自分ががんになった場合」 →がん患者の立場について考えよう ★グループ交流→全体でのシェア 活動①自分ががん患者と意識された後、残された時間をどう過ごすか考える。 活動②がん患者が暮らしやすい社会(理想)とはどんな社会なのか考える。その際、講師の先生から質問(疑問)を教えた。 ★個人活動→全体でのシェア 活動③「理想・現実」から社会の課題を考える。また、今後自分達が社会で活躍するに必要とすべきことを自分の言葉でまとめる。⇒講師の話し 4. 本時のまとめ

がん教育事前打ち合わせシート〔吉城高等学校〕

日時及び場所 令和4年10月7日(金) 17:00 ~ ※※※

事前指導内容(指導済み)

① がんとは(がんの要因等) ② がんの診断とその経過 ③ 我が国のがんの現状 ④ がんの予防 ⑤ がんの早期発見・がん検診

事前・事後学習(指導済み)

事前:10/11保健 現代社会と健康「がんの予防と健康(アーク)」 事後:11/15保健 現代社会と健康「がんとともに生きる社会づくり」(キーク)

本時のねらい(指導の重点)

がんを自分にとって身近なことでして考え、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える。(キーク)

授業展開(主な学習活動)

1. 課題づくり・課題紹介
日本人ががんになる確率等、既習の内容について触れ、がんを自分にとって身近なことでして考える。⇒講師の紹介

2. もし、自分や家族ががんを罹ったら、どんな気持ちになって、どんなことで悩むか考えてみよう。(身体・心・社会)なぜ自分ががんという解決できない問題なのか

3. がん患者が暮らしやすい社会を考える

★グループ交流→全体でのシェア
テーマ①「自分ががんになった場合」
→がん患者の立場について考えよう
テーマ②「自分ががんになった場合」
→がん患者の立場について考えよう

★グループ交流→全体でのシェア
活動①自分ががん患者と意識された後、残された時間をどう過ごすか考える。
活動②がん患者が暮らしやすい社会(理想)とはどんな社会なのか考える。その際、講師の先生から質問(疑問)を教えた。

★個人活動→全体でのシェア
活動③「理想・現実」から社会の課題を考える。また、今後自分達が社会で活躍するに必要とすべきことを自分の言葉でまとめる。⇒講師の話し

4. 本時のまとめ

主体的な学習を促す学習ノート

これまでに習得した知識や経験を想起し、自分の考えや思いをまとめる

自分や家族へのメッセージ、社会生活への提案などを通して、今後の健康づくりに生かす

がん患者とともに生きる社会づくり

1年()組()番 氏名()

Q1 あなたや家族が「余命半年のがん」になってしまったら?

テーマ①:自分ががんになった場合 テーマ②:家族ががんになった場合

自分の意見 テーマ番号: 仲間の意見

Q2 がん患者が暮らしやすい社会とは?

がんになった後の生活において、どんな習慣があるかを考えよう。暮らしやすい社会をつくるために必要なことは?

本時の感想

仲間の意見から得られた新たな気づきや新たな見方・考え方を顕在化する

新たな気づきを生み出すグループ交流



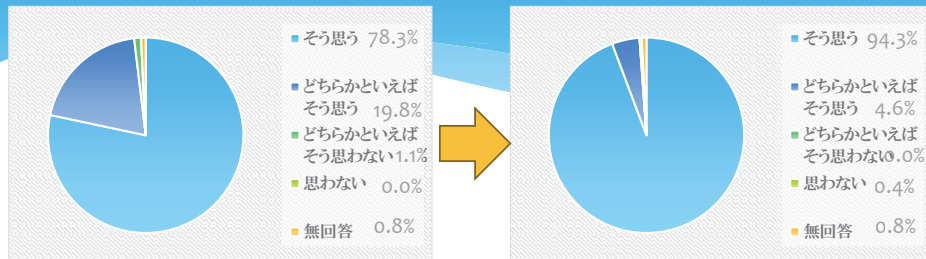
グループ交流に外部講師(医師やがん経験者等)も加わり、その場で効果的に助言を行う

資料集やICT機器を用いた調べ学習により、追究テーマに応じた情報を幅広く収集する

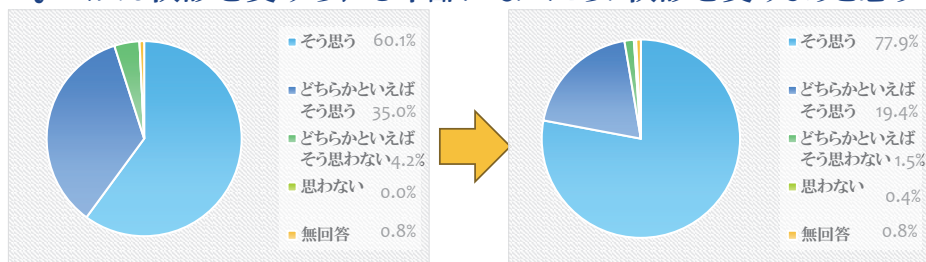


R3の高等学校の取組から

Q1 がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



Q2 がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う

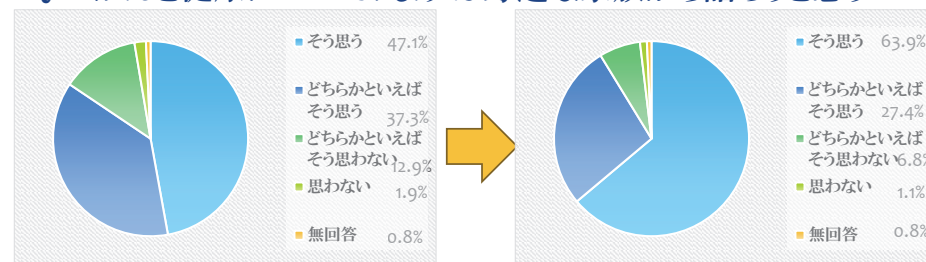


R3の高等学校の取組から

Q3 がんになっても生活の質を高めることができる



Q4 がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う



4 成果と課題

【成果】

- * がんの学習を進めることで、その重要性への認識や行動変容への意識を高めることができた。
- * 自分や身近な人たちの食や運動等の生活習慣を見つめるきっかけとなった。
- * グループ追究やグループ交流の場を取り入れることで、単元を通して主体的に学ぶ姿が見られた。
- * 外部講師から最新の治療や緩和ケアの具体、がん経験者の闘病体験や思いを聞くことは、授業のねらいを達成する上で、非常に効果的であった。

4 成果と課題

【課題】

- * 学習する内容をある程度均てん化し、県内のすべての生徒が確実に学ぶ機会を確保する。
- * 小、中、高等学校で学習する内容を整理し、系統的に学べるようにする。
- * 外部講師の確保と育成を図るとともに、人材バンクを構築する。
- * 自分自身の健康づくりを励行したり、家族等の身の回り的人へ働きかけたりすることができるようにする。

今後のがん教育推進に向けて

◆「がん教育」岐阜モデルの普及

- ☞がん教育の手引き(R4岐阜県教育委員会)を周知するとともに、がん教育の手引きを参考に各学校の実情に応じて授業を行う。

◆教員及び外部講師の指導力向上

- ☞保健体育科教員の研修で取り上げたり、がん教育指導者研修への参加を促したりすることで、授業者の指導力の向上を図る。

